# 米国と日本が共催した Japan FIRST Study Tour 2025

**【経緯 / 目的】**

経済産業省は、米国務省が主導する Foundational Infrastructure for Responsible Use of Small Modular Reactor (SMR) Technology (FIRST)プログラムを支援している。FIRST は、原子力産業の力を活用し、責任ある原子炉の導入を世界的に推進しようとするもの。その一環として、SMR 導入に関心を持つ国の原子力関係者に対し、立地選定に関する知見を提供する、Japan FIRST Study Tour 2025 を実施した。

**【実施内容】**

2025 年 7 月、米国務省、海外産業人材育成協会 (AOTS) 及び JICC は協力して、SMR 導入に関心を有する国の原子力関係者 18 名を日本に招聘した。JICC は、計画の立案、視察先との調整、講義の実施を担当した。視察先には、東北電力女川原子力発電所、東日本大震災・原子力災害伝承館、東京電力廃炉資料館、原子力機構核不拡散・核セキュリティ総合支援センター、日立 GE ベルノバ臨海工場、IHI 横浜事業所などが含まれ、各所から多大な協力を得た。

**【成果】**

日本における原子力発電所立地選定の実践的知見、原子炉の安全対策、廃炉・防災対応、核不拡散・セキュリティ、さらには産業界における SMR 技術力など、多面的な知見を習得した。参加者からは、「原子力発電について貴重な体験ができ、本研修を高く評価する」との声が寄せられた。日米間の国際的相互協力にも大きく貢献できたものと考えられる。

Ms. A. VASOVIC（米国務省）、Mr. A. Circharo（駐日米国大使館）をはじめとした集合写真

女川原子力発電所 PR センターの BWR 原子炉模型

再稼働を果たした女川原子力発電所視察

福島第一原子力発電所事故から学ぶ